第5学年　飛び入り道徳学習指導案

2020 年 1 月 20 日（月）2 限

指導者　尾形正宏

1　主題名　キミならどうする？　＜D(20)自然愛護＞

【資料名　VTR「サルも人も愛した写真家」（NHK）】

2　主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

高学年では，中学年の「自然のすばらしさや不思議さに感動し，自然や動植物を大切にする」というねらいから一歩進んで「自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする」態度を育てていきたい。そのため，自然の偉大さを理解し，自然から学ぶ態度を身につける必要がある。そして，自然や動植物と人間との〈共存の在り方〉を積極的に考え，自分にできる範囲で自然環境をよりよくしようとするよう指導していくことが大切である。

（2）児童の実態について（他教科との関連）

学級の様子については省略。

4 月から，理科で「ハトのエサ」（種子）を発芽させ，インゲン豆と共に観測を続けてきた。また，イチゴやタンポポから取り出した種の発芽も見ており，種（たね）の生命力を感じている。メダカの飼育もし，卵を孵化させて観察してきた。現在は，「人の誕生」という単元を学習中である。このように，「命」に注目しながら学習してきた 1 年であるとも言える。

今回の授業をとおして「動植物の命を大切に」という意識から「動植物との共存」の視点へと橋渡しをする授業にしたい。

（3）資料について

本資料は，NHK 教育テレビ「道徳ドキュメント」（小学校高学年道徳番組，年間 20 本，各 15 分）の中の 1 話である。本番組は，2006 年度からスタートしたもので，「実際にあった出来事や人生体験をとりあげ，現実の問題と向き合いながら道徳を考え」ることを目的として制作されていた（同番組の PR チラシより）。現在，その一部が DVD で販売されているので，利用が可能である。

「サルも人も愛した写真家」の内容を先のチラシから引用する－「天然記念物のサルによる被害に悩んだ村は，悪いサルの薬殺を決定。ある動物写真家に協力を依頼する。サルを愛してこの地に移り住んだ写真家がとった行動とは？」

サルが好きで転居までして長年サルの写真を撮ってきた松岡史朗さんが，本資料の主人公。サルの駆除のために，サルの顔や性格をよく知っている松岡さんにサルを見わけてもらおうというわけだが，大好きなサルの駆除なんて…。

「キミならどうする」と問うことで，子どもたちは心がゆれ動く松岡さんに共感することができるだろう。また，自然と共存することの難しさと大切さも感じ取ってくれると思う。珠洲市でもイノシシ駆除の問題があり，決して他人事ではないはずである。

（4）本校の研究テーマとの関わり

本時の主発問が「キミならどうする」ということなので，ひとりひとりが自分の考えと理由をまとめ，発表することを大切にしたい。「心の地図」やネームプレートを使って児童全員の考えを明らかにしながら，自然と人間との共存について，話がかみ合っていければと思う。最後の「ふりかえり」では自分なりの感想がもてればよい。

4　本時の学習

(1)ねらい

・「動物を愛する」「動物は殺さない」だけでは，解決できない問題があることを知る。

・松岡さんのサルと村人を思う心の葛藤を考えることを通して，野生生物と人間の共存のありかたを考える。

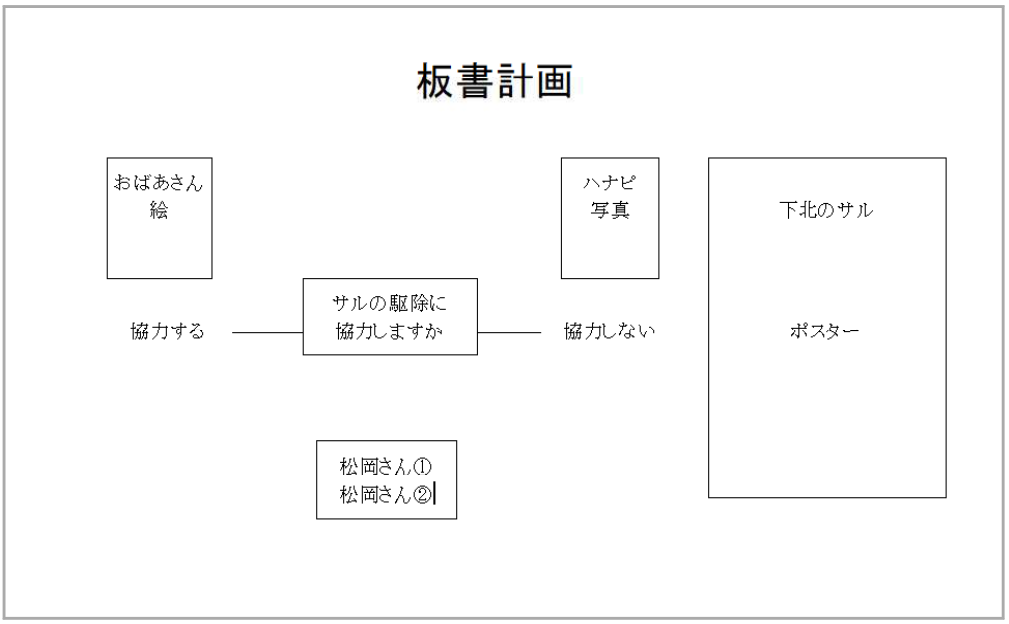
(2)評価規準

主人公の葛藤を考えることを通して，野生生物と人間の共存の難しさに気づくことができたか。

(3)展開

○発問　◎中心発問　・予想される児童の反応	・留意点　☆展開の工夫
(1)下北半島のポスターを見る。 ○このポスターを作った人の思いは？ ・天然記念物のニホンザルを大切にしてほしい ・サルがいることを観光のネタにしている	・ポスターからは，サルを大切にしたいという地元の思いが伝わるだろう。
(2) VTR「サルも人も愛した写真家」前半(約 11 分)を見て話し合う。 ○松岡さんってどんな人 ・写真家，サルが大好き，引っ越しまでした ○どんな問題が起きたの ・サルが畑を荒らした，盗んだ。 ○おばあさんから，「サルも人も嫌いだ」と言われたとき，松岡さんは，どんな気持ちだったでしょうか？ ・くそ，なんてこと言いやがる。 ・私が憎まれる必要はない。 ・そんなにも困っているのだろうか？ ○松岡さんの葛藤を，「心の地図」にまとめてみよう。 ◎あなたなら，サルの駆除に「協力します」か，それとも「協力しません」か？ ＜協力する＞ ・人間も悪いことをしたら捕まる。サルも同じだ。 ＜協力しない＞ ・動物を殺すのは，人を殺すのと同じこと。殺す以外の方法を考えるべきだ。 ＜どちらとも言えない＞ ・どちらの選択がいいか，考えるのは難しい。	・松岡さんの立場に立って番組を視聴させる。 ・松岡さんやハナピなどの写真や絵を準備する。 ・松岡さんの葛藤場面に共感するため，まず，電話を受けた場面まで見せる。 ☆ワークシート「心の地図」の書き方を簡単に例示する。 話合いⅠ(全体交流) ・理由を明確にさせること。 ・その他の方法を考えても良い。 ◎自分の意見を決めることができたか(発表・感想)。 ◎自然と人間の共存について考えているか(感想)。
(3) VTR の後半(約 4 分)を見て話し合う。 ○松岡さんは，捕らえられたハナピに何と呼びかけたと思いますか？ ・ごめんよ　・本当は殺したくないんだぞ　・許しておくれ ・なんで，いたずらをやめなかったんだよ～ (4)本時の感想を書く ○今日の授業で考えたこと，感じたことをまとめましょう。	話合いⅡ(ペアまたは全体) ○早く書けた子から，移動して感想を言いあう。

（４）板書計画



註：「協力する」－「協力しない」の下に児童のネームプレートを貼る

□別の展開　松岡さんの「責任感」に焦点を合わせた場合（やや高度になる）

50 分～ 60 分ぐらいで授業を組む（それくらい重い話題だ！　時間は気にしない！）

（１）では，「葛藤」という言葉とその意味を教え，自分の過去の葛藤場面を思い出して紹介しあう。

せいぜい，「ほしいおもちゃをどっちにするか迷った」「宿題をしなければならないけど遊びたかった」などという意見が出てくるだけだろう。この授業では，このような児童の軽い葛藤経験（本人にとっては大問題かも知れない）と、松岡さんとのギャップに気づいていくことになる。

（２）では，「自分ならどうするか」を軽く聞く。その「理由」を聞いて，板書に残しておく。

そして中心発問を（３）に持っていく。

（３）VTR の後半を見せた後で…

◎なぜ松岡さんは「協力する」を選んだのだろう？

教師　松岡さんは，「協力しない」を選んだ人の理由のようなことは考えなかったのかな。

子ども　考えていたと思うよ。でも，もっとみんなのことも考えたんだと思う。

教師　みんなのことって，農民のことか？　それにしても，あんなに大好きなサルを殺すことに協力するなんて…変じゃないか。

子ども　自分の役目だと思ったから。

教師　自分の役目っていたって，松岡さんはサルが好きで写真を撮っていただけだよ。そんな役目なんて松岡さんには関係ないんじゃない？

子ども　自分しかできる人はいないから。

教師　ほかにいるかも知れないよ。

子ども　松岡さんは，そのときは，自分にしかできないと思ったんだよ。それに，そのままほおっておくと，もっともっとサルたちが農民に嫌われてしまう。それは松岡さんだって嫌だろうと思う。

教師　ほおっておくと，もっとひどいことになっていくのではないかと考えたのか。

教師　じゃあ，「殺すのはかわいそうだ」って気持ちは，どれくらいあったと思う？　ここの住民の人くらい？　このポスターを作った人くらい？　「協力しない」といったあなたたちくらい？　それとももっと大きい？

教師　おそらくこのクラスにいる誰よりも，サルを愛していたんだよね。でも協力したんだね。いや，だから協力したんだよね。やっぱり不思議だね。そんなこと本当にできるのかな。

教師　「協力する」を選んだ理由が「サルが好きだから」っていうのだとしたら，なんか，みんなとは逆だね。みんなと松岡さんは，何が違うのかな。

などと，ツッコミ続けることは可能です。そして，松岡さんの自己決定がそんな簡単にできたわけではないことを，子どもたちは再確認することでしょう。

このような意見を，教師が入らずに，友だち同士で出し合うようになってくれればいいな。それができる学年もあるでしょう。今の 6 年生なら数名ついてこれるかも。まさに〈新し価値観との出会い〉です。

このノンフィクションは現在も続いています（ネットを見ると被害額や駆除数，駆除計画などが出てきます）。高学年を担当したときには，ぜひ，授業をしてみてください。そして，どんな結果になったか，退職後のわたしをつかまえて教えてください。

どの教科（道徳，総合，学活も含め）でも，指導者側に「教えたいこと」「出会わせたいこと」があることがとても大切だと思っています。決められた「教えるべきこと」があるのではなく，教師さえも感動した「教えたいこと」を積み重ねていきたい。それが多くなれば，きっと楽しい教師生活につながると思います。「教えたいこと」を見つけるのは，ロボットではなく人間にしかできないことです。ロボットにできないことをするのが，これからの〈人間教師〉の役目です。これこそ，人間対人間の関わりです。